



古道を訪ねて ⑧

西国街道・牧落地区

稲から西へ向かっていくと街道は、国道171号線により約200mにわたり途切れれますが、府道豊中亀岡線を越えた先で復活し、牧落地区に入ります。

西に進んで行くと、十字路の右手に江戸時代に御触書おふれがきを掲示した高札場跡があります。高札場のところで西国街道を南北に横切っている道は通称「箕面街道」とも「大阪道」とも呼ばれている古道で、明治43年に箕面有馬電気軌道（現阪急電鉄）が開通するまでは、大阪と箕面を結ぶため、多くの人々が往来した道でした。

そのため古道が交差するこの場所には、2本の道標が残されています。箕面街道に面して立っている道標は、高さ約60cmと低いもので、正面に「みのをみち」と刻まれ、右の面に「享保5年（1720）建立年、左の面には「施主大坂・吉文次屋利兵」の建立者の名前があります。もう一本、西国街道に面している道標は、高さが約1m20cmあります。正面の上のほうに南の方向を指す手が浮き彫りにさ



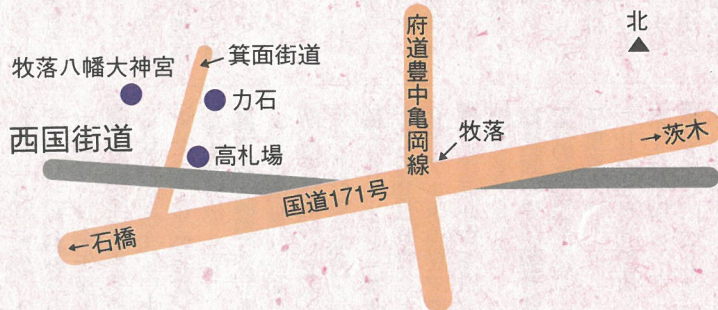
れ、下には「大坂天神四り半道」「はつとり天神」二り道」の文字、左の面には、刀根山御坊への道筋、右の面には、建立者である牧落村の世話人の名前が刻まれています。



▲高札場跡に立っている道標

この道を北に向かうと、箕面地区（旧平尾村）の通称「中の坂」を越えて箕面山へ入ります。また南に進んで行くと、豊中市の長興寺南町で能勢街道と合流し、やがて阪急電鉄服部駅前にある「服部天神」を経由して、天神祭で有名な大阪市北区天神橋の「天満宮」にたどりつきます。

高札場の周辺には、寛文2年（1662）の創建と伝えられる「牧落八幡大神宮」や、昔の若者が力比べのために持ち上げた「力石」を保存している「郷倉跡」、今はトタンで覆われていますが、本来は茅葺きの屋根であった民家など、歴史を感じ



▲力石

ることができるところが多くあります。